

薬剤師の介入が MRSA 薬の血中濃度に及ぼす影響

近年、**チリ** 耐性黄色ブドウ球菌 (methicillin-resistant *Staphylococcus aureus*: MRSA) や緑膿菌を代表とする多剤耐性菌による内臓感染が、社会問題となっております。中でも MRSA 感染は易感染にやすく、重篤しやすい内臓感染の1つです。MRSA 薬は、有効濃度域が狭いため、採血を行い、薬物の血中濃度を逐一確認する必要があります。当院では、MRSA 薬を処方された患者ほぼ全員に薬剤師が介入して、血中濃度が有効域内を推移するように、用量を主治医に提案しています。

本研究では、MRSA 薬を処方された例を対象に薬剤師の介入の有無が血中濃度に及ぼす影響について診療録を用いて調査することで、その影響を明らかにするという研究意義があります。

MRSA 薬 与



以